

昭栄産業がPS 新潟から元気を発信

機械工具専門商社の昭栄産業(新潟市中央区、平澤利明社長)が「第30回STF昭栄テクニカルフェア」を、5月10、11日の2日間、新潟県三条市の燕三条地場産業振興センターで開いた。工作機械メーカーや工具メーカーなど69社が出展した。来場者は合計1246人にのぼった。

前回の2割増し

昭栄産業は毎年春と秋に1回ずつ、本社でプライベートショーを行っている。今回は、長岡支店の開設30周年、テクニカルフェアが30回目となるのを記念し、規模を拡大して開いた。会場は燕三条地場産業振興センター。アクセスがよく、過去にも初回と、2年前の同社70周年の際に、同センターで開催している。

集客目標は1200人だったが、その目標を超える1246人が会場につめかけた。運営委員会で中心となった本社営業一課の関根清隆課長代理は「前回(70周年の際)は1000人を超える来場者が集まっ

た。今回はお客さまからの要望で開始を30分早めた」と話す。

今回は「新潟を元気に!新潟から元気に!」がテーマ。ヤマザキマザックなどの機械メーカーから、オーエスジーといった工具メーカー、ミツトヨほか測定機メーカーなど、出展社は69社を数え、各社とも最新製品をアピールした。

初めて出展した育良精機は「うわさには聞いていたが、これほどの盛況とは驚いた。商談も活発だし、これまで出なかったのはもったいなかった」と話した。またブラザー・スイスループ・ジャパンは「昭栄産業さんと取り引きを始めてから、新潟のお客さんが格段に増えた。商社としての力を感じる」と、地場での存在感の大きさをたたえた。

新技術情報をユーザーに提供

併催イベントとして、充実した特別記念講演会や技術セミナーを開いた。特別講演会は東レ経営研究所の佐々木常夫特別顧問による「生産性を高める戦略的働き方とリーダーシップ」。東レの取締

役、東レ経営研究所社長などを歴任し、独自の経営観によるビジネス書を多数出版している人物の講演とあって、地元の関心も高く、「定員の200人があつという間に埋まった」(平澤利明社長)という。

技術セミナーでは、ユニオンツールが、今話題の金型用超硬材料の直彫りを可能にしたダイヤモンドコーティング工具「UDCシリーズ」について講演。ボールエンドミルやラジラスエンドミルの既存ラインアップのほか、新製品のドリル「UDCMX」もPRした。新技術に関心が高い来場者が、熱心に耳を傾けていた。ほかにも森精機製作所やブラザー工業など合計6社が技術セミナーを行い、技術情報を発信した。

新潟には、工作機械メーカーが多く、工作機械の部品サプライヤーも多い。自動車関連や金型も含め、製造業が盛んな地域だ。「機械や機器を含めたトータルな提案をしている」と、関根課長代理は話す。

(芳賀 崇)